

BMS 2月例会のご案内 〒2/6初年

— 113th Bungeiken Metropolis Seminar —

※ 2025年2月2日(日) 9時30分～12時30分

※ 大東文化会館 404 研修室

(池袋駅より各停で15分、東武東上線「東武練馬」駅下車2～4分。大東文化大学板橋キャンパスとお間違えなく)

※ テーマ 新教材分析シリーズ⑧

「スワンレイクのほとり」(小手鞠るい作 光村図書4年)

報告: 上西信夫(東京文芸研 元千葉県小学校)


昨年から新教材分析・授業シリーズとして物語文「春風をたどって」「銀色の裏地」「みきのたからもの」「ぼくのブック・ウーマン」、詩「かぼちゃのつるが」「われは草なり」、説明文「風船でうちゅうへ」と新教材に取り組んできました。今回は第8弾として「スワンレイクのほとり」の分析を行います。指導書の単元観には、物語をイメージ豊かに読み味わうことを通して、異文化を尊重し異なる文化をもった人々と共に生きようとする気持ちを育むとありますが、形象の相関・全一性の理論で読み解けばもっと豊かに深い意味づけが可能です。皆様の参加をお待ちしています。(会場の窓からの眺望がすばらしいです。リアル参加をお待ちしています。)

※ **参加申込**(ハイブリッド方式)リアル参加は先着40名とさせていただきます。

申し込みについては、リアル参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。リアル参加500円・オンライン参加800円(会場費・資料代・システム利用料)

参加申し込みは <https://bms202502-bungei-tokyo.peatix.com/> から

今後のBMS予定 (原則毎月第一日曜日 9時30分～12時30分)

 3月2日(日) 大東文化会館404研修室 学級じまい・学級びらきで読み合いたい詩・絵本 報告: 山中吾郎さん(東京文芸研 大東文化大) 西真由子さん(東京文芸研 湘南学園小)

【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】上西信夫  →nobu.uenishi@outlook.jp

東京文芸研学習会(BMS※2月例会)のご案内

—113th Bungeiken Metropolis Seminar—

学心門に
は福来る



🇯🇵 福寿草憶良のやうに子を思ふ（大庭星樹）

※授業計画・指導案、全授業記録（だんどり、はじめの感想・あいだの感想・おわりの感想、全時間の板書を含む）を起こした全国大会並みの重厚なレポートで、まずそのことに圧倒されました。初読で子どもたちは〈カル〉の変革—作品の主題を読んでおり、《たしかめよみ》では、〈カル〉と〈ラク〉、〈女の人〉（〈ブック・ウーマン〉）、〈本（を届けること）〉と〈キイチゴ〉〈レシビ〉〈本を読むこと〉との形象の相関をきめ細かく読み、イメージと意味を造形していきます。《まとめよみ》では、図書館無償の原則と〈プレゼント〉との関係を形象の全一性として読むことを文図の《てだて》で概念化していきます。さらに題名の意味づけ、「自分にとってのブック・ウーマンは誰か」という典型をめざす読みへとせり上がる授業報告でした。参加者からは、読書教材的な扱いの教材と思っていたが、教科書会社編集部の意図を超える深い読みの成立に賛辞が送られました。（同時に作品の形象性の問題への言及もありましたが）何よりもすばらしいと思ったことは、校内での共同研究や文芸研の研究会へ参加するたびに会ったみなさんが、私にとってのブック・ウーマンだという袴田さんにとっての典型化のことばでした。

※次回2月例会は、上西信夫（東京文芸研 元千葉県小学校）による新教材「スワンレイクのほとり」（小手鞠るい作 光村4年）の教材分析報告です。

※次回も事務局・西真由子さんのホスト役でハイブリッド方式で行いますが、リアル参加は先着40名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。

記

1. 期 日 2024年2月2日(日) 9時30分～12時30分
ハイブリッド方式
2. 会 場 大東文化会館 404 研修室
(池袋駅より各停で15分、東武東上線「東武練馬」駅下車2～4分。大東文化大学板橋キャンパスとお間違えなく)
3. 内 容 「スワンレイクのほとりで」(小手鞠るい作/光村4年)
報告：上西信夫(東京文芸研 元千葉県小学校)
4. 主催・参加費・申し込み 東京文芸研/リアル参加500円・オンライン参加800円(会場費・資料代・システム利用料)

参加申し込みは <https://bms202502-bungei-tokyo.peatix.com/> から
(一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん)
以上

例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。カンとセンスとブームの国語の授業から、視点・形象の相関をふまえた切実な共体験の形成、文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。

23年7月29・30日の山口大会、24年8月3・4日の第58回徳島大会、「国語の教室」、各地の講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々…の参加をお待ちしています。

インフォメーション



- ▼八王子文芸研基礎講座 1月17日(金)18時～20時 八王子市立高嶺小学校(ハイブリッド) 「海の命」 講師：上西信夫 詳細は文芸研HPをご覧ください。
- ▽「文芸教育」(西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊) 最新134号 特集「認識と表現の力を育てる説明文の授業」/133号 特集「真に『深い学び』をめざすファンタジー教材の授業」 好評発売中! 各号1700円+税 バックナンバーあります。年間購読をお願いします。例会でも用意します。

▽光村版・**新教科書指導ハンドブック**（学年別）発売中／新読書社より各学年 1700円＋税 セット割引有／この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集
▽文芸研授業シリーズ好評刊行中！ 第1弾「たぬきの糸車」（新読書社）・第2弾「一つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらくつの中の神様」・第5弾新刊「サーカスのライオン」／教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にできて、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各 1000円＋税

「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・戦争を詠む

姉と外で飲むのもいいな特別で大事な話もあるらしいから（富山／松田わこ）

弟がマジックをする日曜日「ですます調」が開始の合図（奈良／山添葵）

朝焼けがさっとリセットしてくれたもやっとしていた理不尽感も（富山／松田梨子）

久しぶり母と二人で昼ご飯運動会のふりかえり休日（奈良／山添聡介）

ぼかぼかの秋の日父と旅をする時間がとろり優しい近江（富山／松田わこ）

スーパーで売ってた大きなホッキ貝ステゴサウルスのとげとげみたい（奈良／山添聡介）体長10メートル近い剣竜類の代表。先の赤いホッキガイの刺身、言われれば似ている

ミュージアムショップで選ぶ碧瑠璃魚形（へきりりのうおがた）が一番碧いあお（奈良／山添葵）正倉院展で購入か。ガラス製の魚。緑も黄色もある中で、葵さんの名前に重ねて碧を選ぶ

初雪の日は幼い頃思い出すぬいぐるみの声聞こえてた日々（富山／松田わこ）

あの子って私のことか霜の道（成田／かとうゆみ）

いつもより家までの道遠かった足をケガして帰る夕暮れ（奈良／山添聡介）

冬休みたこやき食べにぬまづまで（練馬区／小池来翔）

親友と食べる焼き鳥部位ぜんぶ食べ尽くしても話し足りない（富山／松田わこ）

台数を始める前にまずココア点P 点Q動かんとして（奈良／山添葵）

抱っこしていいかと聞けば幼子は碧（あお）い地球の瞳（め）して笑（え）まう（春日井／望月恵美）

ハイハイで畳んだタオル次々と薙（な）ぎ倒していく小さな怪獣（ひたちなか／安澤美幸）

卵焼き日々うまくなる我が子にも親に言えない悩みあるのか（朝霞／岩部博道）前週の「母とケンカした夜ひとりたまご焼き焼きつつ謝る言葉を探す」（奈良／山添葵）を受けて

マッチ擦る練習の孫明日ある「むかしのくらし」の授業のため（観音寺／篠原俊則）

「いとをかし」「あなかしこ」など言いながら塾を出てくる高校生らし（厚木／北村純一）

ずっしりと重き乳児を抱きしめ日我は大地を踏みしめていた（秋田／高橋りか）

プレゼント交換会に持つてゆく谷川俊太郎さんの本（相馬／根岸浩一）

小雨降る園庭移動動物園濡れし兔を抱きしめる子ら（さいたま／齋藤紀子）

リュックから顔出すブラキオサウルスと笑いを背負って四歳が来る（山口県／庄田順子）

未だ見ぬ子らの顔をば思ひつつ理科実験の教材作る（東京都／斑山羊）

バーコードを読み取る真似も手際よくお菓子屋さんの店主は五歳（橋本／秋月晶江）


横断後深々おじぎの学童に微笑み返す旗振り二人（熊谷／原伯明）

お遍路に高校生が立ちどまり挨拶をせり卯建（うだつ）のある街
「道草をするな」と今日も声かけて黄色い旗のおじさんとなる（厚木／北村純一）
子の凶鑑虫干しすれば三十年閉じし頁が深き息する（長崎県／稲垣妙子）
将来の夢と希望問はれしに「大人にられたら」といふガザの子（新潟／寺尾正人）
寝返りをマスターせん和緑児は小さき雄たけびもらしクリアす（東京都／舟山由美子）
新藁の敷かれし牛舎喜びの牛の動きで匂ひふくらむ（厚木／北村純一）
りんご園で採りし蜂蜜寒き夜に白湯（さゆ）を注げば花の香微（ほの）か（五所川原／戸沢大二郎）
我が町に一軒のこる畳屋の蘭草（いぐさ）の匂いと職人の腕（北名古屋／月城龍二）
平年より冷ゆる立冬トランプの赤き野球帽高笑いせり（枚方／鍵山奈美江）
トランプでざわつく胸押さえつつ冬用タイヤに交換する朝（魚沼／磯部剛）
敗北を認めず衆を煽（あお）り立て議事堂汚し座に返り咲く（一関／奥山与惣美）
続々と赤が占めゆく速報地図を暗澹（あんたん）として見詰めをりけり（水戸／中原千絵子）
腸（はらわた）を晒すアメリカ秋霰雨（あきついで）（足立区／三角逸郎）
米国を真赤（まっか）に染めて鴟（もす）高音（相模原／大沼拓郎）トランプ勝利を受けて
三連休三日間午前十一時液体生活未ダ脱セズ（東京都／井上智景）呑みっぱなしだったのだ
怖くって面白かった榎図さん別れのサインはもちろん「グワシ！」（東京都／三神玲子）
ブーチンの野望のために戦死するソビエト、ウクライナ、北朝鮮の兵（敦賀／竹内展子）
殺さずに済んだと語る日中事変従軍の父輜重（しちょう）兵なり（四国中央／石川明憲）輜重兵：旧
日本陸軍の兵科の一つで、戦時に軍需品の輸送や補給を任務とした
葉書代八十五円になりたれど昭和基地でも同額うれし（つくば／小林浦波）
選挙前能登を訪う人多けれど終わればまたも訪う人は無し（五所川原／戸沢大二郎）
我が帰宅それが全てであるごとく喜びし犬逝きて久しき（横浜／安達美津子）我が家の駄犬もそうだった
老眼鏡補聴器入歯霜柱（川越／益子さとし）
読み返す「朝日歌壇」の反戦歌四半世紀に半減したり（加東／藤原明）
明王の忿怒の視線を凝視する東寺はギロリ輪王寺はふわり（津／海住秀子）
紅白は空しき祭典何もかもローマ字カタカナ飛び跳ねまわる（福生／橋本武敏）
半年で貸し出し五十回賢治に挟む褒美の葉（相模原／宮崎清美）
十六歳の我が子の棺に忍ばせし『二十億光年の孤独』四十年過ぐ（成田／鈴木喜代子）
死はどんなものですか俊太郎さんの言葉で今伝えてほしい（東京都／遠藤玲奈）
谷川先生あの世へ「さようなら」（世田谷区／松木長勝）「じゃあね」の詩のように
しゅんたろうくしやみをひとつゆきにけり（八王子／額田浩文）
四十雀（しじゅうがら）目白はたまに来るけれど全く来ない雀よいすこに（神戸／田崎澄子）雀が絶
滅危惧種に
一村と賢治がどこかで繋がった孤高、情熱、魂の作（東京都／大岩孝安）
あの人は枯葉に似せた蛾のように生きていくのがつらそうだった（河内長野／平岡章子）
毛のある亀でも角ある兔になってもいいのとかかくいまはにんげんつかれた（周南／元久ほのか）

政治家には国家を先に言う人と国民を先に言う人がいる（綾瀬／小室安弘）
これはそう大阪でいう「難儀」だね標準語にはないニュアンスで（東京都／上田結香）
ウクライナの父母（ちちはは）のため給料の半分を送金するという獅司関（観音寺／篠原俊則）
語彙豊かに力士すべてをリスペクト初解説の元大関は（横浜／毛涯明子）元大関琴風
アメリカも兵庫も怖し帰り花（鎌倉／石川洋一）
鎌倉の大仏さまの背中には翼の位置に窓ふたつあり（奈良／山添聖子）
宰相にしたい人だった客死して五年を経たる中村哲氏（亀岡／俣野右内）
人生の締め括りとなる火葬さえ順番待ちの団塊世代（札幌／田巻成男）団塊世代の親類の葬儀も一週間待ちだった
作詞者の名前も知らずこの歌は空で歌える鉄腕アトム（北海道／狩野勝弘）♪空をこえて、ラララ、
星のかなた…谷川俊太郎作詞／次の歌の常連・戸沢さんの子の名前もおそらく俊太郎
肖（あやか）って子に名いただきし人逝きぬ彼は詩を書き吾は歌を詠む（五所川原／戸沢大二郎）
長兄と次兄のごとき西田氏と正平さんの逝きて冬来る（栃木県／川崎利夫）同学年で私も「心旅」のファンだった。「人生下り坂最高!」「シンカンセーン」
この世をばもっと気楽に生きろよとペタルを漕いで逝きし正平（栃木県／手塚清）
いつまでも旅は続くと思ってた日野正平が夢の中行く（茨木／瀬川幸子）
桜鍋牡丹鍋鮫鯨てっちりに酒は熱燗小半（こなから）徳利（横浜／徳元てつお）小半徳利、一升の半分の半分で二合半の徳利と註
年毎に小言増してく妻がいて今朝は雨だと我を責めたり（新潟／小幡章）ご同輩、私も旅先の雨を私の所為にされる
寒昂（かんすばる）老人Aと申します（紀の川／橋本哲次）
くわうえふや旧仮名遣ひおもしろし（倉敷／森川忠信）「くわうえふ」は「黄葉」で紅葉のこと
大陸の雪の白なり大白鳥（日立／加藤宙）
湯豆腐や心の清き酒の友（横浜／本松健治郎）
濁酒ひとりで祝ふ誕生日（石川県内灘町／山本正浩）
おでん酒老いたるゆゑに湧く泪（昭島／大関崇央）
一日をかけて書いているかも知れぬ三分で読む天声人語（東金／山本寒苦）
ドナルドは狡（ずる）くて短気で自己中でそれでも憎めぬ アヒルのことだよ（堺／芝田義勝）
来月の詩はもう読めない「さようなら」最後の言葉は「感謝」であった（広島県府中／内海恒子）
目が覚める／庭の紅葉が見える／昨日を思い出す／まだ生きてるんだ／今日は昨日のつづき／だけでいいと思う／何かをする気はない／どこも痛くない／痒くもないのに感謝／いったい誰に？／神に？／世界に？ 宇宙に？／分らないが／感謝の念だけは残る 「どこからか言葉が」朝日新聞24年11月17日掲載 11月13日歿
寂しくて怒る人あり悲しくて笑う人あり心ならずも（東久留米／白井澄江）
パンを乞うガザの人びとの塊のなかの二人の少女の圧死（観音寺／篠原俊則）
なんだっけなにかに悩んでいたけれどなにに悩んでいたか忘れた（東京都／中村容子）
能登今もブルーシートの屋根ばかり来る日も来る日も時雨に暮るる（羽咋／北野みや子）

十一月十五日がわが誕生日横田めぐみさんが拉致されし日なり（神奈川県／神保和子）
 ネットには魑魅魍魎（ちみもうりょう）が跋扈せり誹謗中傷詐欺自己顕示（岡山／別府慶二）
 霜月の軒下彩る実りあり大根の白干し柿の朱（あか）（気仙沼）及川睦美）
 二十億光年の詩人西せり冬銀河（さいたま／成田英明）
 あの子って私のことか霜の道（成田／かとうゆみ）、ゆみちゃん、ちょっと句の趣が変わったね
 基地の内どこにも戻る道が無いふるさと探すわれの沖縄（所沢／風谷螢）
 二重被害受けたる能登の冬晴のテントにカレーの香り漂う（石川県／瀧上裕幸）
 猫までも痩せてやつれたガザの街食われることなく生き延びている（五所川原／戸沢大二郎）
 もしピカソ現世に居たらきっと描く向日葵潰す戦車を（越谷／小田稔藻）
 脱走の北朝鮮兵のその後を思えば闇の曠野浮かび来（一宮／園部洋子）
 ルンペンや傷痍軍人数多（あまた）居し生い立ちの頃想う極月（ごくげつ）（舞鶴／吉富憲治）
 戦乱と分断の世に初演より二百年経し第九を歌ふ（奈良／小山寿美代）
 昇り来る日と消えゆく月のあり朝といふ字の天地悠々（福島／美原凍子）
 カタログに「小音スリッパ」という商品つねに気を遣い生きる私たち（東京都／上田結香）
 小賢しい機能はないが壊れない昭和家電のごとく生きたい（滝沢／田浦将）
 しわ深きシリア難民テントしか知らぬ孫こそ不憫と語る（中津／瀬口美子）
 独裁者いくつ機内にトランクを積んで逃げたか宮殿残し（三鷹／大谷トミ子）
 コロケを買いに並べば前の人で売り切れになるそんな人生（福井／佐々木祐佳子）
 北欧へ平和大使の息白し（筑紫野／二宮正博）
 二十億光年忌なり冬銀河（敦賀／中井一雄）
 認知症の人の発するありがとうヘルパー吾の魂（こん）を揺さぶる（横浜／山本美智子）
 人はみな地球に家を借りていることを知りけり三十年前（豊中／福井敏光）1995年1月17日阪
 神淡路大震災
 青春も白秋も経て玄冬（げんとう）期のいま冬至湯にしずめる身体（平塚／青木良子）
 政策を歪める企業の献金を総理は「表現の自由」と言えり（観音寺／篠原俊則）
 外国の青年に席譲られる箱根ケーブル嬉しく寂し（佐渡／若林としみ）
 冬晴れの空を見上ぐる首の骨キリン七本我も七本（さいたま／齋藤紀子）
 全地球揺らぐ予感や賀状書く（船橋／斉木直哉）
 福島の忘れ去らるる年惜しむ（福島県伊達／佐藤茂）
 猫の句の入選果す漱石忌（福岡／釋焯硯）猫好きの漱石忌 12月9日



世田谷ボロ市  代官餅 12月16日に行きました。ブームの

蒸籠(せいろ)購入 **1月15・16日 東急世田谷線「上**

町」下車 掘り出し物が見つかるかも… 

2025 年文芸研第 59 回大会は^{チーバ}千葉大会

8 月 2(土)・3(日)日 柏市周辺の会場を確保中

参加+実行委員としてお力添いをお願いします。



庄司さん:「大会の前後、どこへ行けばいいですか？」

綿引さん:「千葉には TDL 以外何にもないんだよ。鴨川シーワールドや九十九里浜は遠いし…」とぼそぼそと話す。1.11 青年学校後の懇親会での一コマ。

そこで、ちょっとマニアックだけれど、柏・流山に来る途中、都内で浅草や上野、銀座・渋谷・新宿という定番でない所に立ち寄ってみてはどうでしょうか。

①柴又帝釈天:ご存知フーテンの寅の故郷・葛飾柴又。門前の商店街も風情がある。常磐線各停(千代田線)金町駅乗り換え京成金町線(または京成本線京成高砂駅乗り換え)柴又駅下車。寅さんの銅像が迎えてくれる。




映画のオープニングで出てくる江戸川土手からは矢切の渡しの船に乗って対岸の松戸市に行くこともできる。対岸には野菊の墓文学碑がある。

②南千住「芭蕉ゆかりの地」(千代田線南千住駅下車):奥の細道矢立はじめの地。「奥の細道」で最初の句(行く春や鳥啼魚の目は泪)を詠んだ歴史ある場所。

③南千住回向院(小塚原刑場)(千代田線南千住駅下車):品川の鈴ヶ森とともに処刑場があった所。その刑死者の供養をした寺。吉田松陰・橋本左内・鼠小僧などの墓も多数ある。杉田玄白らが死体を使って解剖を行い「解体新書」を書いたことでも有名。山口県人の方は松陰の墓参にぜひ。

④こち亀の両津勘吉像(千代田線亀有駅下車):漫画「こち亀」葛飾区亀有公園前派出所」で有名な両津勘吉の銅像があちこちに。2025 年 3 月「こち亀記念館」がオープンとのこと。

⑤「キャプテン翼」ゆかりの街・葛飾区四ツ木:(東京スカイツリーに近い押上駅から京成押上線四ツ木駅ホームと公園)サッカー漫画の金字塔とされる「キャプテン翼」の原作者・高橋陽一さんの出身地葛飾区四ツ木周辺。作品の登場人物や名場面でラッピングされた四ツ木駅とキャラクター銅像がある四ツ木公園など、漫画やアニメを追体験できるスポット。

 **チーバくん**⑤ チーバくんは千葉県のマスコットキャラクター。くまモン、ひこにゃんほど有名ではないけれど…。 24 年冬の実践研で赤穂さんが担任の 1 年のクラスの子どもたちと折ったというチーバくんの折紙付の菓子袋を用意してくれた。(毎回の手の込んだお菓子の個包装も楽しみです)チーバくん が認知されて嬉しかった。市川さん手製のわらび餅と併せてほっこりする神戸実践研でした。



■冬の高野山・蛇腹道 小中学生時代の通学路、毎日通った伽藍と金剛峯寺との間の道。秋は紅葉の名所。石垣の両脇は馬酔木、春一番に白やピンクの花を咲かせるのが待ち遠しかった。

アホウドリ 信天翁の身近雑感

※恒例の日本民教連交流研究集会が12月8日和光小であり、辻さん・曾根さん・山中さんらと参加した。秋山さんが「風船でうちゅうへ」で分科会レポート報告。全体会は奈良教育大学附属小（現在は奈良市立校に強制出向中）の入澤佳奈さんの講演。この間の奈良附に対する凄まじい攻撃と現状、この闘いから見てきた教育の条理への確信と、子どもの作文や国語の授業の事実を基に説得力のある感動的な内容だった。心配していた通り入澤さん自身も心身を痛め通院加療中とのこと。奈良教附小から目を離さないで（無関心は最大の敵）、できるところで「奈良教育大附属小を守る会—みんなのねがいでつくる学校応援団—」と連帯していきましょう。

※——周りを見回してください。「指導書通りに授業しては、子どもに力がかからない」「教科書の手引きのまま授業を進めるなんて教師として恥ずかしい」と怒ったり呆れたりしている間に、その傾向はますます加速してもはやそんな違和感を抱く教師が少数派になっている状態ではありませんか？教育研究者の鈴木大裕氏が「**構想と実行の分離**」（※1『崩壊する日本の公教育』集英社新書）と表現したように、肝心かなめの〈何を〉〈どう指導するか〉、そこを考える仕事、まさに構想する仕事が教師の手から奪われ、現場の教師はただ末端の実行役（教科書会社のワークシート学習やソフト教材の接続・検索）にされてしまっているのです。この現状を思えば、わたしたちが実践研で追求しているのは、まさに「構想し実行する教師本来の仕事」です——と、「文芸研ニュース」No.168の巻頭言に辻委員長が記したように「ICT化」「働き方改革」の名のもとに、〈肝心かなめの〉授業構想力・教材分析力（教師の専門性）が教師の手から奪われようとしている。「働き方改革」などと大仰に言わなくても、現場に責任を転嫁しないで、教員を増やすこと、賃金を上げること、教育現場に自

由を取り戻すことに尽きる。始末が悪いのは「ICT化」「働き方改革」が現場や教師のためになると喧伝され、現場では「善意」のもとに粛々と行われていることだ。校内研修そのものがなくなっている学校もあるとか一。「ICT化」「働き方改革」と引き換えに、授業の構想力・教材分析力の劣化という取り返しのつかないことが進行している。

※「こんな夢を見た」(漱石「夢十夜」風に) 今年の初夢は何と谷川俊太郎さん。野球をしている谷川さんに会釈をすると「どこでお会いしましたか」と話しかけられる。「文芸研東京大会でご登壇いただきました。その節はありがとうございました。」と答えると、「そうでしたか。」と話していると、谷川さんの顔がだんだん西郷先生の顔に変わっていく…という夢。どなたか夢判断を一。

※散歩がてら自宅から30分歩いて世田谷文学館(京王線芦花公園駅下車)の寺山修司展(～3月30日まで)に足を運ぶ。夢に谷川俊太郎さんが出てきたのは親交があり臨終に立ち会った寺山修司展に行けということだったので勝手に思った次第。代表作で教科書でもおなじみの「マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや」をはじめ「ふるさとの訛りなくせし友といてモカ珈琲はかくまでにがし」の短歌や「便所より青空見えて啄木忌」の俳句、天井桟敷時代の展示など濃い展示内容で200円の入場料は安いと思った。

※娘の招待で甲州の温泉に。温泉も懐石料理もうれしいが甲州といえばワイン醸造所とウイスキーの蒸留所。白州工場ではウイスキー樽になったような気分を味わい、勝沼ぶどう郷ではワインの試飲を全品目(100種類近くあったと思う)飲破。お土産に3本購入しリュックに背負って帰る。勝沼郷や北杜市白州に移住してもいいなあと心が揺らぐ一。



「文芸教育」134号・1700円+税

文芸研の実践理論研究誌

「文芸教育」新読書社刊

西郷竹彦創刊 文芸研編

134号は「認識と表現の力を育てる説明文の授業」特集。文芸研の説明文指導は、説得の論法を手がかりに、認識の方法を駆使し、深い認識内容に迫ることが特色です。具体的な教材を通しての文芸研方式の授業がわかります。学習会でも用意しています。

135号は3月刊行予定。特集「私の『学級びらき・授業びらき』」/バックナンバーも用意しています。「文芸教育」誌は3月・7月・11月の年3回発行。定期購読をお願いします。

📍 文芸研東京学習会(BMS)連絡先 上西信夫

✉ → nobu.uenishi@outlook.jp

📱 SMS → 080-3253-4742

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメールでご連絡ください。

BMS 会場案内



大東文化大・板橋キャンパスとお間違いなく



大東文化会館へのアクセス：池袋駅より東武東上線各停で7駅（約15分）、東武練馬駅（大東文化大学前）下車。どの出口からも徒歩2~4分／学習会会場はK404 研修室（40人収容）、9時から13時まで借りています。（山中吾郎さんに尽力いただき、2月2日（日） 3月2日（日）まで予約済み。今から予定に入れてください。開始・終了時刻が以前より30分遅くなりました。）エデュカス東京（麴町）より大東文化会館までの所要時間がかかる方もいると思いますが、学習会充実のため引き続きリアル参加にご協力ください。

季語さがし

山本純子

セーターに
ジャンパーに
マフラーまいて ニットぼう
手ぶくろ
マスクもつけて 外へ出る
待ちに待っていた 雪だもん
うっすらつもった雪だから
そっと かきよせ
雪うさを ひとつ作ったら
学校の 小屋のうさを思い出す
日曜の だれもない学校で
にんじん かりポリ食べているだ
ろうか

◇この詩に、季語が十個、隠れていますので
見つけてください。同じ季語が二回出てきて
も、一個と数えます。

第59回文芸研大会・千葉大会

大会テーマ:《ものの見方・考え方》を育てる国語教育/主催:文芸教育研究協議会

1次案内

期日 2025年8月2(土)・3(日)日

会場 全体会:スターツおおたかの森ホール(流山市)

つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン「おおたかの森」駅北口4分

分科会:さわやかちば県民プラザ他(予定)

つくばエクスプレス「柏の葉」駅/常磐線・東武線「柏」駅より東武バス

内容 1日目・全体会(9時15分~16時30分)

基調提案/公開授業・シンポジウム/馬頭琴演奏 **mihō 美炎**さん/実践報告/

記念講演 **荻上チキ**さん (交流会 18時~20時・ホテルルミエールグランテ)



1981年生まれ 評論家・編集者
メディア論を中心に政治経済、社会問題、文化現象まで幅広く論じる。主な出演番組 TV「サンデーモーニング」「ニュース23クロス」
ラジオ「荻上チキ session」等

2日目・分科会(1午前/2午後の2部制 9時15分~16時30分)

【1. 午前 領域別分科会】

- ①詩の授業 ②説明文の授業 ③作文 ④絵本 ⑤文芸学
- ⑥ものの見方・考え方 ⑦特別支援学級の国語の授業

【2. 午後 学年別分科会】

- ①小1「スイミー」 ②小2「かさこじぞう」 ③小3「モチモチの木」
- ④小4「ごんぎつね」 ⑤小5「大造じいさんとガン」 ⑥小6「海のいのち」
- ⑦中・高「夏の葬列」

■参加費 4000円/参加申込 5月中旬より「文芸研」HP から

第59回文芸研  千葉大会実行委員会連絡先

秋山亮介(080-3210-6358/chakky511@gmail.com)